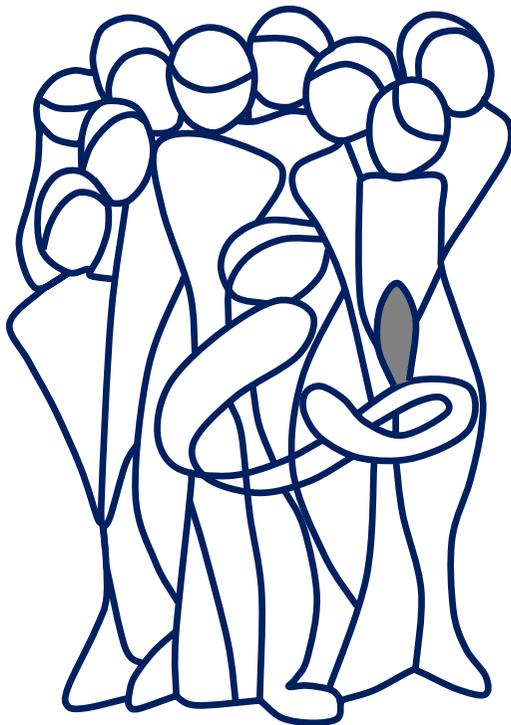


大阪女学院 大規模震災・初期対応ハンドブック



「だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。」(マタイによる福音書 25 章 13 節)

Watch out , then , because you do not know the day or the hour.

(Matthew 25:13)

①緊急地震速報発令！

①窓ガラス、本棚、電灯
など**危険物から離れる！**

②（時間的余裕があれば）
火の始末！ 出口確保！

③**防御姿勢**をとり
揺れが収まるのを待つ
***余震にも注意！**



②屋内待機（屋外活動中はその場で）

* **建物倒壊の危険**がある場合

→ **グラウンド**（学外活動の場合**屋外**）へ避難

③対策本部の設置 (管理職または現場責任者)

④安否確認 (負傷人数・死亡人数と場所)

就業日・休日の学内活動日

◆対策本部設置

- A 法人 (事務局)
- B 大学 (学長室)
- C 中高 (北第1会議室)

◆安否確認

- B 大学
教室、トイレ
食堂、体育館、部室
など施設内の学生の
安否を確認
→学長室へ報告

- C 中高
(授業中)
授業担当者が安否確認
→北第1会議室へ報告

- (休み時間・行事・クラブ)
HR 担当者はクラス、
副担任他が他施設内、
クラブ顧問は部員の
安否を確認
→北第1会議室へ報告

学外活動中

◆対策本部設置

現地の適当な場所または
現地の広域避難所

◆安否確認

引率者は分担し安否確認
→現場本部・責任者へ報告

◆救急処置・応援

現地に対応・手配

情報集約

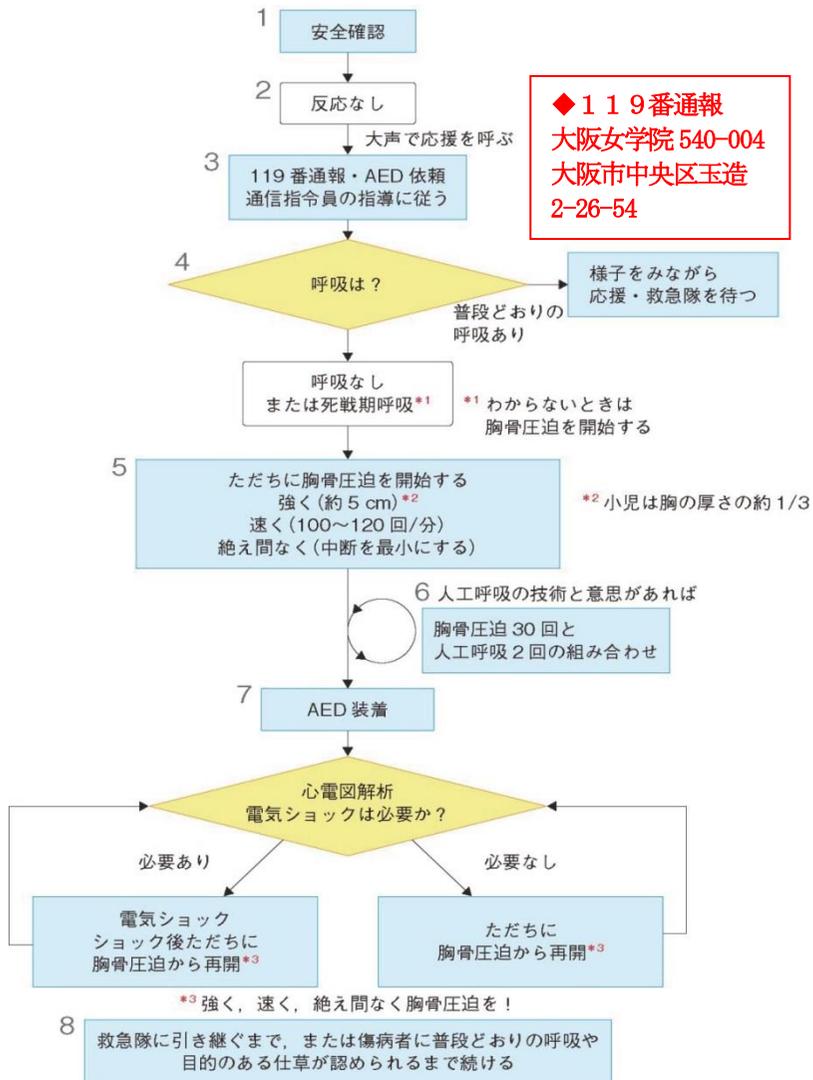


負傷者の救護

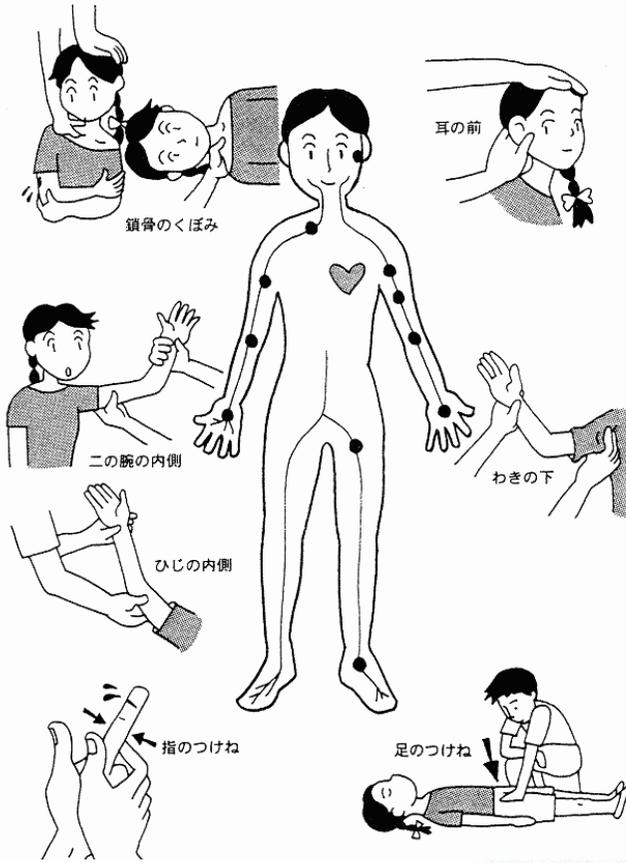
⑤負傷者の救護（教職員、学生、生徒総動員）

A 心肺蘇生 B 大量出血の止血 C 倒壊物・落下物からの救助

A 心肺蘇生（一次救命処置）



B 止血処置 止血点と直接圧迫法



- ① 出血状況を確認する
- ② **動脈性失血** なら直ちに止血を行う。

*血液は感染の可能性があるので
血液に触れる時はビニール袋などを使用。
皮膚に血液がつかないようにする。

真っ赤な先決が吹出し
脈打つよう出血



C 倒壊物・落下物からの救助

倒壊物や落下物で圧迫されている要救助者がいる場合、すみやかに救助する。
ただし、余震、火災、さらなる倒壊など**二次災害の危険性がある場合は、救助を一時中断すること。**

⑥情報収集

- A 学内の被害状況の把握
- B 通信手段の確保と外部状況の把握

公的機関に救助要請可能

公的機関の機能まひ

⑦救助要請

- ◆ 119番通報

⑦自助救助の続行

- ◆ 同時にHP, 公式SNS等で状況発信

⑧学生・生徒の帰宅判断

- A 交通機関の状況把握
- B 保護者への連絡手段の確保
- C 帰宅可能者の判断・選別

⑨順次帰宅

- 必要なキット
(食料、水、他) 携行

⑨72時間避難

- 居住区画、トイレの確保
- 食料、毛布等の配布
- 救急処置・心身のケア

大阪女学院 大規模震災発生時の対応項目

1. 大規模震災発生時の状況区分と指揮系統

- A-1 就業日（生徒・学生登校日で授業・講義時間内）
 - 2 就業日（生徒・学生登校日で授業・講義時間外、就業時間外）
 - 3 就業日（外部来校者がある場合）
- B 校外活動中
- C-1 休業日（生徒・学生の活動日、または教職員出勤日）
 - 2 休業日（閉館日）

2. 行動フロー

(1) 初動（速報発令または地震発生直後）

- ① **防衛・避難行動**（頭部保護。屋内で待機。建物倒壊の危険がある場合は屋外へ避難誘導）
- ② **対策本部設置と外部通信手段と電源の確保 * 常時交替**
- ③ 安否確認（生徒、学生、教職員、外来者）
- ④ 救助要請と自主救助活動（心肺蘇生、止血、骨折箇所固定）

(2) 地震発生～72時間

- ① 外部通信手段と電源の確保
 - 内部→外部（救助要請：消防・救急、大阪府、自衛隊）
 - 外部→内部（情報収集：地震の状況と周辺の被害状況）
- ② 情報共有（被害状況、72時間以内の行動と見通し）
- ③ **避難場所開設**（生徒、学生、教職員、外来者）と区分け。
学内ボランティア組織の始動。
 - A 生徒・学生：教室
 - B 教職員：スタッフルーム、会議室
 - C 外来者：体育館 **広域避難所の開設**
 - D 負傷者：保健室または空き教室
 - E 死者：チャペルに一時安置（内部・外部共用）
- ④ 72時間の生活確保
 - 水・食料・毛布（シートなど）の配布。睡眠場所・寝具の設置
 - トイレの設置（仮設トイレ含む。生理用品、ペーパーの設置）
 - 電灯と電源の確保と設置

(3) 72時間経過後

①外部通信の確保

内部→外部（救助要請：消防・救急、大阪府、自衛隊）

外部→内部（情報収集：地震の状況と周辺の被害状況）

②情報共有（被害状況、今後の行動と見通し）

③帰宅可能者と困難者、長期避難者の区分け

保護者への連絡と引き渡し（中・高）

自力帰宅の可能性（中・高・大）

スタッフ交替の可能性

長期避難者の避難所への移動

3. 業務再開の決定

①状況把握（交通、インフラの回復。学内設備の回復）

②スタッフの確保

③生徒・学生の状況把握

④学院の経済状況と支援（公的、民間）の見通し

⑤次期と業務内容の段階的再開

災害対策備品・備蓄・提供一覧 2017.6月現在

◆正門南側 備品・備蓄物置

軽油 60L、給油ポンプ、電工ドラム(30m)×2

投光器(500W)×2、LED 照明(500W)×2

手回し・ソーラー充電ランタン×10、ランタン懐中電灯×20

手回し充電ラジオ・ライト×3、ラジオ×2

短 4 乾電池(1 パック 4 本)×94 パック

◆グラント東側

ディーゼル発電機×1

◆体育倉庫

トイレ（洋式×7、多目的×1、小用×2）、使い捨てトイレ 4000

◆南校舎 3-5F 給湯室

中高生用（パン＋水 500ml）×各自 1 食分

◆学院食堂提供

自販機（飲料 500 本×10）5000 本、水 500ml×5000 本

非常食 2 種類×1000 食備蓄予定